



BHUTAN

学校名： 東京都八王子市立横山第一小学校

氏名： 矢嶋幸子

[担当教科： 小学校全科]

● 実践教科等： 総合的な学習の時間
道徳

● 時間数 ： 13時間

● 対象 ： 小学校6年生

● 対象人数 ： 30人

[1]単元名

世界の国へとびだそう

[2]単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

- ・ブータンの文化や生活の様子について知り、世界の国々への興味・関心を高める。
(進んで参加する態度)
- ・自分の課題をもって調べることで、異なる文化や習慣に対する理解を深める。
(多面的・総合的に考える力)
- ・「幸せ」についての多様な価値観にふれ、自分の考えをもつ。(批判的に考える力)
- ・世界の国と日本のつながりについて考える。(つながりを尊重する態度)
- ・世界で活躍する日本人の姿から、自分の将来の夢や生き方について考える。
(他者と協力する態度)

[3]ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・世界の国々に興味をもち、文化や考え方の多様性について気付く。【多様性】
- ・ブータンと日本のつながりについて知る。【連携性】

[4]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の 観点と方法
1	【幸せの国とは？】 ・自分たちにとっての幸せとはどんなことか考える。	・自分達が「幸せ」と感じる時はどんな時か、「幸せの国」とはどんな国なのか考え、友達と伝え合う。	・ワークシート	・話し合いの様子 ・ワークシート
2	【ブータンはどんな国？】 ・ブータンの文化について知り、世界の国々の文化に興味をもつ。	・ブータンの国の文化、衣食住等について知る。	・パワーポイント ・地図 ・民族衣装 ・国旗 ・ルンタ ・通貨 ・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシート
3 4	【ブータンについて知ろう】 ・ブータンの学校や生活の様子について知り、自分達との共通点や相違点に気付く。	・ブータンの学校の様子や生活の様子の写真を見て、日本との共通点や相違点について話し合う。	・写真 ・ワークシート	・話し合いの様子 ・ワークシート

5	【幸せについて考えよう】 ・幸せには多様な考え方があることに気付く。	・GNHの考え方を知る。 ・ブータンの人々の大切にしていることについて考える。	・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシート
6	【ブータンと日本のつながりについて知ろう】 ・西岡京治さんの活躍から、ブータンと日本のつながりについて知る。 (道徳)	・西岡京治さんの活躍について学び、日本とブータンのつながりについて考える。	・「ブータンに日本の農業を」(6年道徳副読本「きみがいちばんひかるとき」光村図書) ・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシート
7 8 9 10 11	【世界の国について知ろう】 ・世界の国に興味をもち、自分の課題について調べる。 ・友達と発表し合うことで、世界の国々について理解を深める。	・ブータンについて学習したことから、世界に目を向け、日本とつながりのある国について、自分の課題を決めて調べる。 ・調べたことを友達に発表し、伝え合う。	・本 ・インターネット ・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシート ・発表
12	【世界で活躍する日本人について知ろう】 ・世界で活躍する日本人の活動について知る。	・青年海外協力隊の活動について知り、人のために活動することについて考える。	・写真 ・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシート
13	【世界の国へとびだそう】 ・今まで学習してきたことから、自分の生き方にいききたいことを考える。	・今までの学習を振り返り、「幸せ」のために大切にしていきたいことを考える。	・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシート

〔5〕授業の詳細

1 時限目：【幸せの国とは？】

自分が「幸せ」と感じる時とはどんな時か考えさせた。ワークシートに一人一人が自分の考えを書き、グループごとにお互いの考えを伝え合ったあと、クラス全体で発表をした。その後、「幸せの国」とは、どんな国だと思うか、イメージを話し合った。児童は自由に自分たちの意見を話し合い、様々な考えがでてきた。

(児童の考え)

幸せと感じる時

友達と遊んでいる時、おいしいものを食べている時、寝る時、遊園地に行く時、ゲームをしている時、学校、おこづかいをもらった時、ほしいものを買ってもらった時、笑顔でいる時、家族が元気な時、スポーツをしている時、誕生日、等

幸せの国のイメージ

物が豊か、自然が豊か、GDPが高い、自由、平和、安全、みんな仲良し、優しい、笑顔がいっぱい、ゲームがたくさんある、争いがない、災害がない、犯罪がない、等

2時限目：【ブータンはどんな国？】

「幸せの国」といわれている国がどこの国か、ヒントをもとに考えさせた。児童が興味をもてるよう、実物を見せながら授業を進めた。民族衣装のキラを着て授業を行い、民族衣装を見て、児童から、「タイ？」「インド？」「中国？」と様々な意見がでてきた。ブータンの国旗を見せ、国旗に込められた意味について説明しても答えがわかる児童はいなかったが、国王が2011年に来日したことは、覚えている児童が多く、国王の写真を見せると、「ブータンだ」という答えがでてきた。

世界地図でブータンの位置を確認したあと、パワーポイントを使用し、写真や動画を見せながら、ブータンの国の概要について、地形、民族、宗教、言語等を伝えた

ココがポイント！

児童が関心をもてるよう、民族衣装やルンタ、通貨など、実物を提示した。

3・4時限目：【ブータンについて知ろう】

ブータンの学校の様子と生活の様子の写真を見せ、日本での自分達の学校の様子や生活の様子と比べて、共通点や相違点について考えさせた。グループごとに話し合って意見を出させ、クラス全体で発表を行った。児童は写真に大きく反応し、積極的に意見を発表していた。自分たちの生活が当たり前ではなく、世界には様々な文化があるということに興味をもって考えていた。

ココがポイント！

異なる文化に興味をもち、理解を深めさせるため、自分達の生活と比べて考えられるようにした。

5時限目：【幸せについて考えよう】

前時までの学習で、ブータンの生活は、自分たちのイメージしていた幸せの国とは違うという意見が多かった。「ブータンは幸せの国とは少し違うと思う」という意見の理由として、「日本よりも物が豊かではないこと」や、「学校に通うのに、遠くから時間をかけて歩いている子どももいること」などがあげられた。また、「ブータンは幸せの国だと思う」という理由としては、「家族や友達を大切にしているように感じたこと」や、「写真でみたブータンの人はみんな笑顔だから」という意見がでた。

その後、GDPと、世界から注目されているブータンの国の政策、「GNH」について説明した。また、「足るを知る」等、チベット仏教の教えにもとづいた考え方や、ブータンで子ども達にインタビューしてきたことについて話をした。児童は、物の豊かさや心の豊かさがあることに気づき、「幸せ」と一言でいっても、多様な価値観があることについて考えていた。

（児童の感想）

- ・幸せは、国によって考え方がちがうと思った。幸せは、いろいろな考え方があると思った。
- ・幸せとは、物だけではなく、家族とかが一緒にいられること。あたりまえのことが幸せだとわかった。そう考えたら、自分も幸せだと思った。
- ・ブータンの人々と、私たちが考えていた幸せは違った。いつか自分も人の幸せを考えられるような人になりたいと思った。
- ・よく考えてみると、毎日家族や友達と過ごしていることが1番の幸せだとわかりました。世界の人々が笑顔で暮らせるように願います。
- ・幸せとは、自分だけではなく、世界のみんなが笑顔で毎日過ごすことだと思った。

6時限目：【ブータンと日本のつながりについて知ろう】

ブータンの農業指導に力を尽くした西岡京治さんについて、道徳の副読本「ブータンに日本の農業を」（『きみがいちばんひかるとき』 光村図書出版株式会社）を教材にして学習した。ブータンの田んぼや野菜の写真は、日本と似ている部分が多く、児童は写真を見て、「秋田県？」「山梨県？」という反応をしていた。ブータンの野菜や風景だと知ると、「ブータンは遠い国だと思っていたけれど、近い国だったん

だ。」という感想がでてきた。ブータンと日本とのつながりを知ることで、今まで遠い国のように感じていたブータンを身近に感じたようだった。また、28年間もの間、ブータンの農業指導に貢献し、「ダショー」の称号を授かった西岡さんの活躍を知ること、国際協力についても考えるきっかけとなった。

(児童の感想)

- ・西岡さんの農業がブータン人に受け入れられたのは、相手を思いやり、時間をかけて伝えていったからだと思います。自分も、相手を思いやり、行動していきたいと思いました。
- ・国が違っても、相手の立場に立って思いやりをもてば、仲良くなれたりしたわれたりするのだと思いました。日本の伝統を伝えるだけでなく、その国の伝統も学び、大切にしていかなければいけないと思いました。
- ・世界の人と仲良くするためには、まず、自分が相手の立場に立って、自分の考えをただいだけでなく、一緒にやって理解してもらった方がいいと思いました。西岡さんは、ブータンの人に受け入れてもらってすごいと思いました。

7・8・9・10・11時限目：【世界の国について知ろう】

ブータンについて学習したこと、世界の国について興味をもち、日本と関わりのある国について、一人一人が、自分の課題を決めて調べ学習を行った。世界の国々の文化、衣食住や、教育について、日本との共通点や相違点を考えながら調べ、調べたことを、友達に発表できるようにポスターにまとめた。また、児童は、自分の調べた国の幸せについても考えていた。

11時限目では、調べた国の地域ごとにグループを作り、ポスターセッションを行って、調べたことをお互いに伝え合った。

.....
ココがポイント！

.....
ポスターセッションで、全員が発表を行い、お互いに質問をしながら行うことで、学習を深めることができた。
.....

12時限目：【世界で活躍する日本人について知ろう】

研修中に訪問した、JICA隊員の活動している場所を紹介し、ブータンで活躍する青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの活動について、写真や動画を見せながら児童に伝えた。

(児童の感想)

- ・人のために何かをする優しい心、親切な心をもって活動している人を知って、ぼくも人の役にたてるようになりたいと思った。
- ・国はちがっても、同じ人間同士だから、助け合う心をみんながもてば、地球の困っている人も助かるから、助け合う心を大事にした方がいいと思った。
- ・ぼくも、この人達みたいに、人のために何かできる仕事についてみたいです。
- ・はじめは、人のために生きて何が幸せなんだろうと思ったけれど、授業を聞いて、人のために何かすることが幸せという考えがわかってよかったと思いました。

13時限目：【世界の国へとびだそう】

今までの学習を振り返り、「幸せ」のために大切にしていきたいこと何か考え、話し合いを行った。最後に、今の思いを、未来の自分へのメッセージとして書いた。

〔6〕児童・生徒の反応/変化

この学習を通して、幸せについて考えたことで、自分だけの幸せだけではなく、他者との関係で生まれる幸せも自分の幸せにつながるという考え方をするようになり、幸せには、多様な考え方があることに気付いた。

また、ブータンについて知ることをきっかけに、世界の国について学習を広げたことから、世界の国々へも目を向けることができた。

- ・ぼくたちは初め、自分のためだけのことを幸せと考えていたけれど、ブータンの人たちは、人と一緒にいることや、誰かを幸せにすることも幸せだと考えていた。
- ・本当の幸せとは、一人じゃないこと。自分だけの幸せではなく、人の幸せも思うこと。
- ・幸せとは、他人を思うこと。物だけでなく、心の豊かさが本当の幸せだと思う。そして、人の幸せを願うことだと思う。
- ・調べていて、日本とはまったく違う国があるのだなと思いました。
- ・この学習で、自分の印象とは全くちがったことや、想像してあっていたことなど、たくさんを知ることができました。食事や衣類、住居や民族など、調べないとわからないことなども知りました。まだまだ調べてみたいことがたくさんあり、行ってみたいくなりました。
- ・友達の発表を聞いていて、どの国も旅してみたいくなりました。
- ・今回の学習で、様々な国の文化を知り、国々が十人十色であることを改めて深く感じた。そして、日本のすばらしさも感じた。

〔7〕授業実践の成果と課題

成果

- ・授業の中で、実物や、実際に訪問してきた写真や動画を活用したことで、児童に興味関心をもたせることができた。
- ・ブータンという一つの国を知ることをきっかけに、世界の国々へ目を向けさせることができた。
- ・一人一人が自分の課題を決めて学習し、発表をすることで、自分の考えを友達と伝え合い、学び合うことができた。

課題

- ・児童に伝えたいことや考えさせたいことがうまく厳選できず、毎時間、ゆとりのない授業になってしまっていた。
- ・ブータンから世界へ広げられたことはよかった部分でもあるが、広げすぎてしまい、児童の理解が浅いまま終わってしまったところもある。ブータンに絞った授業展開をしたら、もっと学びが深まったかもしれない。

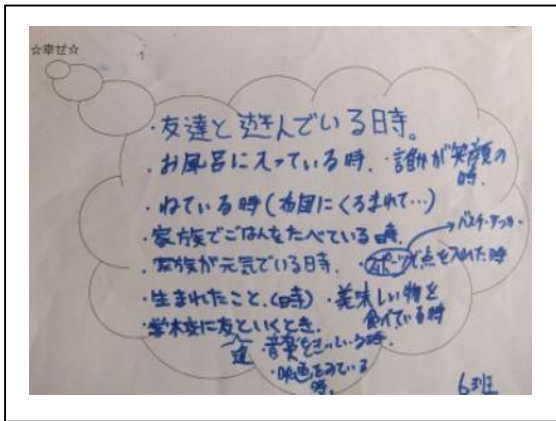
〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・「私たちの地球と未来『ブータン王国』」〈<http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/indexj.html>〉
(交易財団法人 愛知県国際交流協会)
- ・『ブータン幸せの国の子どもたち』 NHKドキュメンタリーWAVE 取材班 アグネスチャン 東京書籍 2013年
- ・『ブータン、これでいいのだ』 御手洗瑞子 新潮社 2012年
- ・『ブータンの笑顔』 関建作 径書房 2013年

〔9〕使用教材(写真/図などの実物)

- ・『きみがいちばんひかるとき』
「ブータンに日本の農業を」 6年道徳副読本 光村図書出版株式会社

添付 1



幸せとかんじる時

添付2



学校の様子を知ろう



生活の様子を知ろう

〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

教師海外研修での経験は、自分にとって、かけがえのないものとなった。この研修で、初めて国際協力の現場を訪れ、たくさんの体験をさせていただくことができた。海外旅行や、日本で学んでいるだけではわからなかったことを、自分の目で見て、感じておくことができ、自分の視野を広げることができた。

しかし、学んできた多くのことを教材に、授業実践を考えた時、何をどのように伝えていけば、子どもたちの心に響く国際理解教育の授業ができるのか悩み、授業をつくっていくことは、とても難しかった。試行錯誤しながら授業を行い、1回、1回、子ども達と共に考えてきたことは、とても貴重な経験となった。

また、異なる県、異なる校種の先生方、この研修に参加しなければ関わることのできなかったたくさんの方々とお会えたことも、自分にとってとても大きかったと思う。この研修での経験や出会いを大切に、教師として、一人の人間として、自分にできることに一つ一つ挑戦していきたい。